

道の駅来夢とごうちの課題等

- 1 道の駅「来夢とごうち」の課題
- 2 道の駅「来夢とごうち」の目指す方向性(案)
- 3 重点道の駅企画書で目指す方向性
- 4 道の駅「来夢とごうち」の基本方針(案)
- 5 道の駅「来夢とごうち」重点道の駅の提案メニュー

1 道の駅「来夢とごうち」の課題

■ハード面での課題

課題1: 道の駅内の回遊性・一体感を高めることが必要

①現在の道の駅周辺では、国道191号より南敷地には、道の駅施設があり、物販機能・飲食機能・観光案内機能・トイレ機能を有しています。北敷地では、商業機能（セブンイレブン）、飲食機能（チャレンジショップ）、物販機能（JA（太田川産直市））、遊び機能（わくわくランド）、トイレ機能、大規模駐車スペースを有しています。

②それぞれで賑わいを生んでいますが、機能が分散しており、特に道の駅施設は国道を挟んでいるため、回遊性や一体感が分断されています。

そのため、回遊性や賑わいを生みやすく、新生道の駅としての一体感を感じられる機能の再配置や動線計画を検討することが必要となります。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題2：来訪者の期待感を高め、道の駅から各地へと誘導する仕掛けづくりが必要

- ①道の駅は戸河内IC下りてすぐに位置し、安芸太田町の玄関口となっていることから、来訪者が道の駅に訪れる可能性は高いと考えられます。さらにETC2.0搭載車の一時退出を可能とする制度により、来訪者増への追い風を受けることとなります。
- ②そこで、来訪者の期待感を失わせないよう、安芸太田町の玄関口である道の駅で、期待感をさらに高めるよう工夫が必要となります。
- ③そのためには、道の駅にまず寄ってもえるような誘導(サイン)を行いながら、新生道の駅にて、安芸太田町の雰囲気や魅力の片鱗を来訪者に見せ、「あそこに行ってみたい！あそこも行ってみたい！」「これ食べてみたい！」などと思わせることが大切となります。さらに、観光等の案内や町内ツアー等の受付、その他町内の情報を発信し、来訪者を各地に案内するコンシェルジュの機能を展開することが重要となります。

1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題3：渋滞が起こらないよう、道の駅へのアクセス方法の改善が必要

- ①現在の道の駅周辺への駐車場へのアクセス道路は3つ（道の駅施設入り口・チャレンジショップ西側・わくわくランド北側）ありますが、観光シーズンとなると、戸河内ICから下りた車で、国道191号が渋滞となります。
- ②特に利用されている入り口は、チャレンジショップ西側から大規模駐車場に入る経路で、戸河内ICからは右折（信号なし）となります。そのために、渋滞が起こると考えられます。
- ③道の駅の再生を図ることで、より利用者が増加すると考えられることから、渋滞の緩和を図るための道の駅へのアクセス道路の見直しを図る必要があります。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題4: 魅力的な景観形成が必要

- ①戸河内ICから下りると、大きな案内看板やセブンイレブンがまず目に入り、道の駅の存在感が薄くなっています。また、戸河内IC下りた交差点の左手部分には、かつてモニュメントがありました。現在は、休憩スペースとして活用されています。
- ②戸河内ICから下りて、最初に目にする安芸太田町の玄関口であるため、魅力的な景観をつくり、来訪者に良い印象を持ってもらうことが重要となります。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

■ソフト面での課題

課題1：安芸太田町だけでなく、広域の視点で商品等の販売ロットを増やすことが必要

- ①安芸太田町には、農産物や祇園坊柿、鮎、漬物焼きそば、チョコちゃん、酒、戸河内割物(くりもの)など、魅力的な食や伝統工芸があります。
- ②より売り上げを伸ばすためには、商品の種類や数を増やすことが求められます。しかし、安芸太田町内だけで商品を揃えるには限界があるため、広域の視点を持って、山陰地方等の物産等も視野に入れた商品確保が必要となります。
- ③その際には、顧客になぜ他地域の商品も取り扱うのか、地域のつながりや旧街道でつながる圏域紹介、道の駅同士の友好関係など、丁寧な説明があるとより理解が深まります。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題2: 町内にお金を循環させるためには、農産物の生産力向上が長期的には必要

- ①高齢化する農業を底上げするためには、販売力以上に町内の生産力向上が課題となります。
- ②生産力の向上は時間がかかるため、長期的な視点で取り組む必要があります。町の農業部署との連携や出荷者グループでの協議も必要になります。
- ③地域商社として考えられるのは、地域商社が農家に野菜を品種指定で委託栽培してもらい全量買い取るような仕組みをつくることです。
- ④道の駅運営の多くが「売り場貸し出し型手数料ビジネス」を展開していますが、少しリスクをとって仕入れて売るビジネスを増やしていくことが、生産量を上げるために、さらには利益率を上げるために必要な手立てです。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題3：町内の観光スポット等をつなぐ機能を強化し、観光客と観光消費を町内に循環させることが必要

- ①道の駅「来夢とごうち」に立ち寄った来訪者を町内の観光スポットや宿泊・飲食施設、体験・遊びにつなぐ仕組みをつくる必要があります。
- ②道の駅「来夢とごうち」の再整備を進めながら、観光スポットや宿泊・飲食施設の魅力アップや、新たな体験・遊びの掘り起こしを進める必要があります。
- ③また、観光スポットや宿泊・飲食施設、体験・遊びをパッケージツアーとして、商品し、来訪者に提案することも道の駅の役割です。

1 道の駅「来夢とごうち」の課題

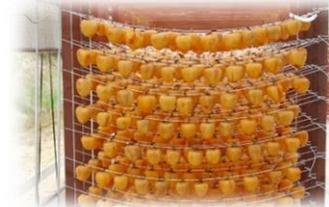
課題4：都市部の消費者の生の声を、町内の生産者や事業者にフィードバックすることが必要

- ①お客様の声を道の駅経営に活かすことはもちろんですが、製品の生産者や、観光関連事業者(宿泊、飲食、体験等)へのフィードバックも重要になります。
- ②たとえば、東京や大阪、広島において、PRイベントや外販事業に出向いた際に、地域ごとの顧客ニーズがどのように違うのか、いま何が売れているのか、そのリアルな情報を捉え、生産者へフィードバックする機能です。
- ③町外へ出店するときは、やる気のある事業者に声をかけ、一緒に出掛けるという取り組みが施策として効果的です。
- ④公平平等に気を遣いながら、やる気のある事業者にこそチャンスが巡ってくるような支援が求められます。

1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題5: 新規商品だけでなく既存商品のブラッシュアップを含めて、商品・サービスのプロデュースが必要

- ①道の駅には、新たな商品やサービスの開発や町内外の事業者間の連携による商品企画、または既存商品、サービスのブラッシュアップといったプロデュース機能が求められます。
- ②その際には、その商品・サービスのターゲットやペルソナの設定支援、商品用途に適した量や質への助言、例えばパッケージデザインのリニューアル支援など、町内の事業者が取り組む商品・サービスづくりのアドバイザーができる役割も重要です。
- ③そのため、経験を有する人材の確保や外部のネットワークを育てていくことも重要になります。



1 道の駅「来夢とごうち」の課題

課題6：町民に愛され、利用される道の駅へ。

- ①道の駅にはバスセンターとしての役割もあり、産直市など町内利用者も集い、憩いの場所になる必要があります。また、町内の利用者を高めることにより、町内の地域経済を循環することができます。
- ②町内の魅力を道の駅に凝縮することにより、子どもたちにとってはふるさと教育の場にもなります。生鮮野菜や加工品をはじめ、地産地消など食育を育む場としての役割も。自慢できる「道の駅」⇔自慢できる「ふるさと」へ。
- ③産直の野菜・加工品をはじめ、賑わいの創出や来訪者のおもてなしには、「地域の力」が必要となります。そのためには町民の方々の理解と協力が不可欠です。「町民とともに歩み、成長する道の駅を目指します。」

2 道の駅「来夢とごうち」の目指す方向性（案）

①安芸太田町の魅力に“惚れさせる”ショールームとなる。

本物の魅力は地域にある。道の駅では、その良さの片鱗を”ショールーム”として見せて、来訪者に安芸太田町の魅力に“惚れさせる”。

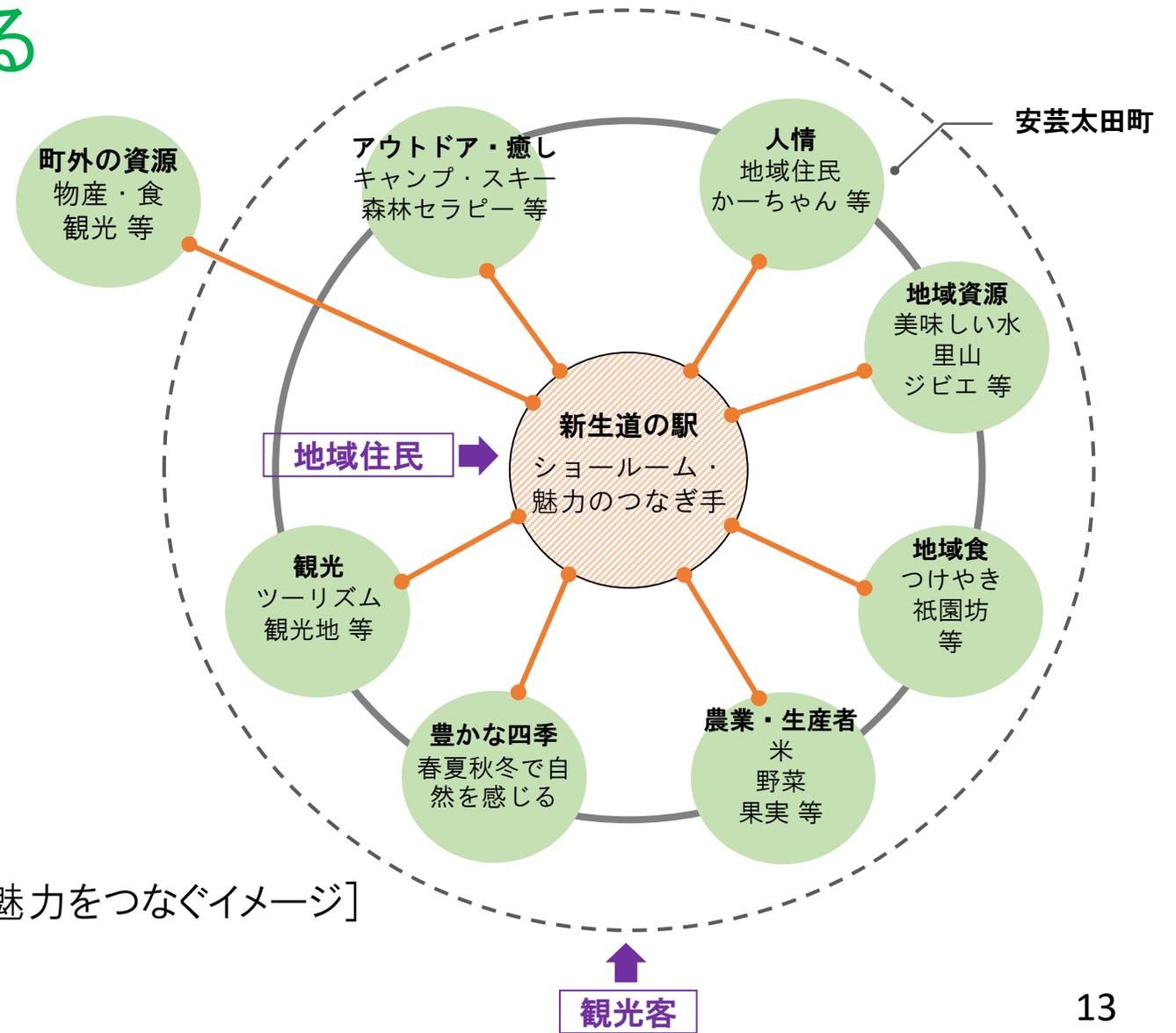
『ショールーム』の狙い

- 1 来訪者に安芸太田町を“惚れさせる”ことを狙った、以下の機能を展開する場を想定します。
- 2 安芸太田町の魅力を伝えるプレゼンテーションの場（施設内での展開だけでなく、施設周辺の景観の良さも考慮する）
- 3 リピーターを飽きさせない、新鮮な情報発信をしつづける場
- 4 新しい来訪者に興味を持ってもらう場
- 5 観光地・飲食店・宿泊業・アクティビティ・人等の関係施設や人をつなげる場

2 道の駅「来夢とごうち」の目指す方向性（案）

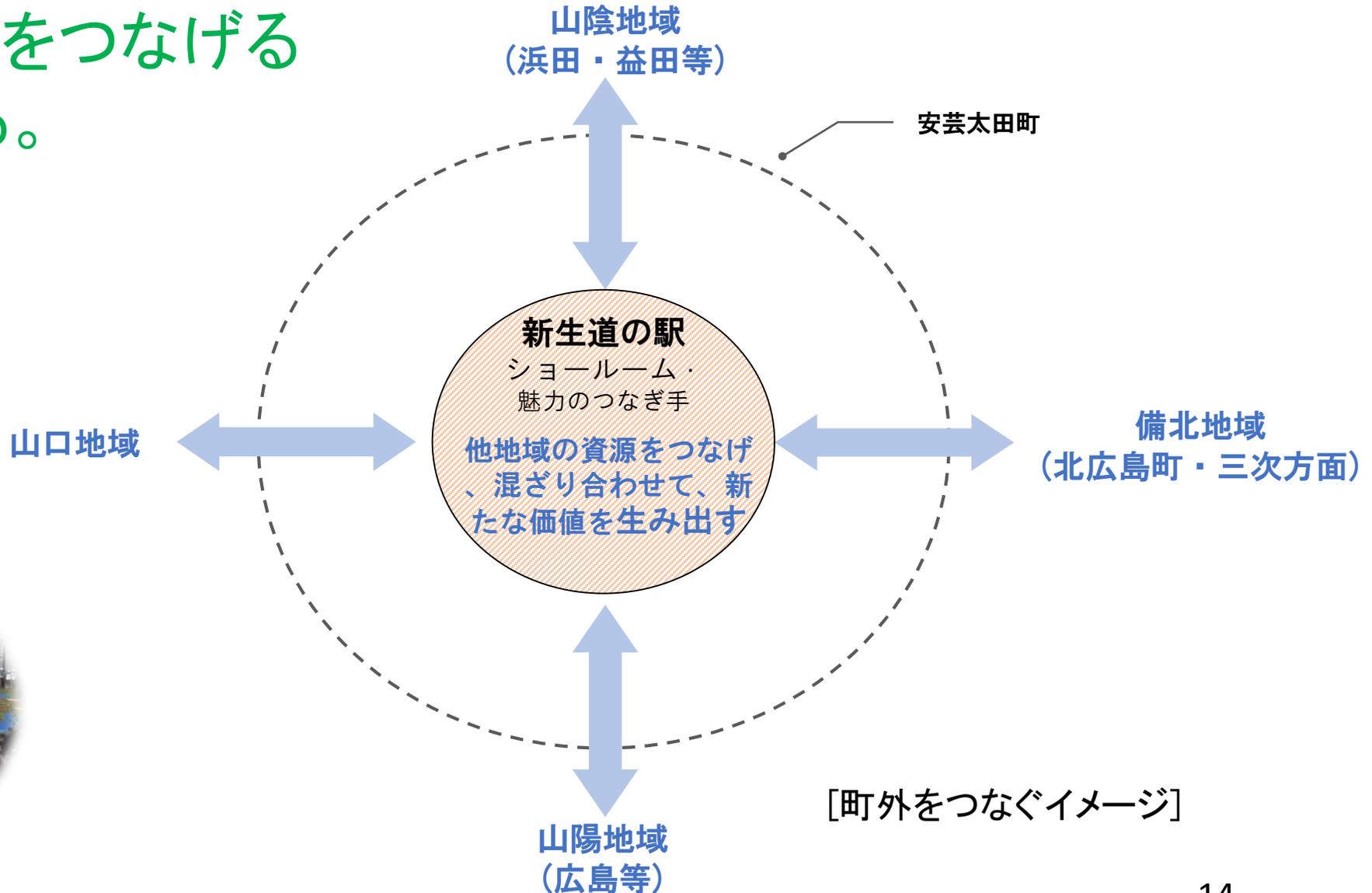
②町内各地の魅力をつなげる『つなぎ手』となる。

人と出会い、自然と出会い、食と出会い、地域と出会い、安芸太田町が持つ価値と、来訪者・町民を引きあわせる『つなぎ手』となる道の駅を目指す。



2 道の駅「来夢とごうち」の目指す方向性（案）

③町外のヒトとモノをつなげる『つなぎ手』となる。



3 重点道の駅企画書で目指す方向性

多目的ハブ機能

つながることによる価値創造エンジン

- 「道の駅」でつなぐ
 - ・ ヒト・モノの導線をつなぐ（物流・交流の結節点）
 - ・ 都会と田舎をつなぐ（自然と癒しの地域パークのメインゲート）
 - ・ 町内の観光地をつなぐ（三段峡・井仁棚田・恐羅漢・温井ダム）
- 「道の駅」が関わってつなぐ
 - ・ 広島市等との広域観光連携により世界とつなぐ（インバウンド）
 - ・ DMOと産品とをつなぐ（一元的ブランディング・プロモーション戦略）
 - ・ 事業者をつなぐ（事業者間・産業間連携・産官学連携）
- 「道の駅」をより楽しめる目的地に
 - ・ 来訪者、お客様にやさしい、使いやすい導線
 - ・ 地域の商品、食事のラインナップの充実、休息・遊び・体験の場の整備
- 「道の駅」をまちの魅力を伝えるショールーム
 - ・ 安芸太田町の魅力を伝えるプレゼンテーションの場
 - ・ リピーターを飽きさせない、新鮮な情報発信をつづける場
 - ・ 新しい来訪者に興味を持ってもらう場

まちの玄関口

わくわく感あふれる自然と癒しの地域パークへの誘い

4 道の駅「来夢とごうち」の基本方針（案）

基本方針1:コンセプトと新生道の駅の役割を踏まえた必要機能を適切に再配置する。

- コンセプト及び新生道の駅の役割を踏まえ、道の駅の本来機能である「休憩機能」「地域の連携機能」「情報発信機能」を考慮しつつ、導入すべき機能の整理が必要となります。
- それぞれの機能(施設)の親和性や利便性、相乗効果を考慮し、効果的な再配置を検討します。

基本方針2:施設内の機能をつなげ、回遊性・一体感を高める動線を構築する。

- 上記の機能を有機的・一体的につなげ、目的を持って来た人も、目的を持っていない人も、回遊したくなる動線を構築します。
- さらに、施設周辺には、太田川や石垣が組まれた農地、昔ながらの蔵や石州瓦の集落景観、自然豊かな山並みなど、魅力的な資源がちりばめられています。こうした風景も、安芸太田町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、施設周辺の回遊性も視野に入れて動線を構築します。

4 道の駅「来夢とごうち」の基本方針（案）

基本方針3: 国道191号による南北の分断を考慮した、機能の役割分担を明確にする。

- 国道191号により、道の駅全体が分断することによる一体感の喪失や連携のしづらさ、道横断による事故リスク等のデメリットを克服するため、安全な動線の確保とともに、国道の南北での役割や目的を明確に区分します。

基本方針4: スムーズで効率的なアクセス道路の検討を行う。

- 戸河内ICの交差点や国道191号の渋滞の軽減や施設内の安全性・回遊性・動線を考慮した、スムーズで効率的なアクセス道路の検討を行います。

基本方針5: 玄関口としてのしづらえを整える。

- 戸河内ICの交差点からの景観づくり(看板等)や安芸太田町の魅力を感じる、施設 北側の農地、山並み、石垣等を借景し、安芸太田町らしさを実感できるよう、しづらえを整えます。
- また、周辺の魅力的な景観に配慮し、新たな建物や工作物を設置する場合は、景観になじむデザイン、色彩とします。



5 道の駅「来夢とごうち」重点道の駅の提案メニュー

○地域商社による「地域商社機能」「地域DMO機能」「道の駅運営」の三位一体の取組による稼ぐ観光まちづくりの拠点

■「地域商社あきおおた」は、平成30年1月に設立し、平成30年4月から次の業務を開始しています。

- ①地域内事業者が稼ぐために地域事業者を支援する(地域商社機能)
- ②マーケティングの手法を用いて地域全体を売り込む(地域DMO機能)
- ③道の駅を物販、観光の拠点として活かす(道の駅運営)



○高速道路ICや広島市に近接する立地を活かし、インバウンドを呼び込むためのゲートウェイ機能を強化

■道の駅来夢とごうちは、日本政府観光局(JNTO)から「外国人観光案内所」として認定を受けています。

■「地域商社あきおおた」は、旅行サービス手配業登録事業者として、町内宿泊施設、交通事業、体験メニュー提供事業者との連携を図り、外国人旅行者の受入れを行っている。

5 道の駅「来夢とごうち」重点道の駅の提案メニュー

○国際教育を推進している地元高校とチームを組み、インバウンド対応に向けた新たなサービスを創出

- 県立加計高校では、総合的な探求の時間で、英語版のPR動画や観光パンフレット作成を行っています。
- また、生徒の短期留学に積極的に取組み、また各国からの留学生の受入も行っている。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンラインでの交流を行っている)

○町の魅力を伝えるショールーム的役割を担うため、周辺の景観、自然へのいざない、人と人との交流の舞台となる「道の駅」を実現

- 本町では、平成25年度から教育旅行の受入(民泊)を行っており、年間約2,000人の小中高生を受け入れて、受入家庭との交流を深めている。
新生道の駅は、教育旅行の対面式(入村式)等、人と人との交流が生まれる場所としても創生します。